

孫を大切に思うなら、 ときには嫌われる勇気を。

料理研究家として大活躍の星澤先生は3人のお孫さんのおばあちゃん。「子ども世代ができないことをフォローするのが祖父母の役割」と語る星澤先生に、星澤流・孫育ての極意をお聞きました。

箸使いに始まる 人としてのマナー

孫は長女の息子で、小学4年生、2年生、幼稚園年長の3人兄弟。会うのは平均して月に一度くらいでしょうか。娘の家を訪問したり、自宅に招いたり、たまに一緒に外食することも。私が祖母として今一番熱心に取り組んでいるのは箸使いです。長女は2歳で箸使いのマナーが身に付いていたのですが、その本人からは「今からそんなにうるさく言わなくても」と文句を言われます(笑)。

親子ですれ違う部分もありますが、うるさく言うのは、食事のマナーをきちんと身に付けてほしいから。私たちは、一緒に食卓を囲むことで仲良くなりますが、そうした食事の席で礼儀正しい振舞いができて初めて一人前だと思っています。さらに正しい生活習慣はできるだけ早いうちに身に付けることが大切だと思って熱心にやっています。

子育ての主役は子ども夫婦ですが、しつけや遊びなど、子育てに忙しすぎる子ども世代ができないことを、時間に余裕のある自分たちがしてあげることが祖父母の役割だと思っています。



家族の歴史や味を伝えるのも 祖父母の役割

家族の歴史を伝えることも大切です。私は、孫が自分で荷物を持てる年齢になったら、一人ひとりと旅行したいと思っています。旅をしている中で「あなたはこんな風に生まれてきたのよ」とか、「ママが子どものときはこうだったのよ」とか、

話してあげたい。普段集まるときは盛り上がり過ぎて騒いでいるだけで深い話ができないでしょ。孫ときちんと向き合うための二人旅です。

また、日本の伝統を伝える意味で、おせち料理は毎年丁寧に作っていますが、実は孫たちから一番リクエストが多いのは「いもち」。いもちは私が祖母から教わった我が家の味で、調理の過程で食材が変化する驚き、焼けるときの匂いや期待感を今もありありと思い出します。だから、孫たちが喜んでくれてうれしいですね。



星澤幸子 HOSHIZAWA SACHIKO
料理研究家・星澤クッキングスタジオ主宰

南富良野町生まれ。札幌テレビ、どさんこワイドの「奥様ここでもう一品」に1991年より月曜日から金曜日まで毎日生出演を続ける。2015年「北海道食育推進優良活動表彰」受賞

本当に孫を思うなら ときには嫌われる勇気を

孫が無事生まれたとき、喜びと同時にほっと肩の荷を下ろしたように感じました。子どもを一人前に育てることができ、次の世代に引き継ぐことができたという満足感・達成感だったのかしら。そういう意味でも孫はかけがえない存在ですね。

祖父母の役割として、親子関係がうまく行かないときに孫の受け皿になることがあると思いますが、そのために必要なのは孫からの信頼。「孫のため」を思って言うことはきっと通じるはずと信じて、うるさいおばあちゃんをやっています。

孫は本当に可愛くてついつい甘い顔をしたくなりますが、本人のためを思うなら、言うべきことは言う。ときにはあえて嫌われる勇気を持ってほしいと思います。

◀お孫さんと一緒に「いもち」作り